

## 平和の重みを心にきざむ 150年目の夏に

今日で1学期が終わりました。保護者や地域の皆様には、本校教育に温かいご理解ご協力をいただき、本日を迎えることができました。修学旅行自然学校もこの上ない好天の中実施でき、幼保小連携やコミュニティスクール、150周年記念事業実行委員会の発足など、地域の方にも見守られ、子どもたちが挨拶で品格まで身につけてくれていることを、とても嬉しく感じました。ご支援いただきました保護者地域の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

昨日の朝、大雨の中競い合うようにセミが大合唱していました。それは風物詩というよりどこか悲痛にも聞こえました。地上で1週間という限りある命の中、最後まであきらめない鳴き声に、心打たれました。

今年の夏は、本校創立以来150年目の特別な夏です。新型コロナ第7波と言われるほど急激に感染拡大していますが、生活をストップしないという、新たなチャレンジになりそうです。命を最優先に、これまでの経験から得た知恵と工夫で対応しながら有意義で楽しい夏休みになることを願っています。地域でもストップしていた夏祭りやお盆、縁日、帰省、花火大会など、夏にしか味わうことのできない日本の文化がまた少しずつ復活しています。それらの行事のひとつひとつは、今が平和であることを深くかみしめ、味わいながら、どうかこのような平和が続きますようにと祈り、考えるためのものでもあるとも感じます。

日本での夏は、広島や長崎に原子爆弾が投下され、終戦を迎えた季節です。太平洋戦争の経験を語り継ぐ世代が少なくなりつつある今、ウクライナとロシアのことをつぶさに報道で全世界が知り、同じ過ちを二度と繰り返してはならないと悲惨な経験から心をつなげた時代も、平和によって過去のものになりつつあることに私たちより上の世代は危機感を感じています。平和のためにできることは何かと、どの世代も懸命に考えていることを大事にしなければと思います。

私の両親の世代は戦中戦後を経験し、人生を翻弄されながらも高度経済成長期を生き抜いてきました。私も子どもの頃から様々なリアルな話を聞いて育ちました。自分が直接経験したことではないので公の場では話さないようにしてきましたが、ウクライナの惨状を見るにつけ、私たちの世代が今語り継がねば、次の世代にバトンが繋がらないと思うようになりました。そこで夏休みの前に、ここで一部を伝えたいと思います。

私の祖父はルソン島で戦死しました。33歳でした。知らせは大きな箱の中に紙切れ一枚だけだったそうです。20代だった祖母は、4歳3歳0歳の3人の子を連れて、今の私の年齢であった曾祖母とともに、満州（中国東北部）内陸部から大連までたどりついたそうです。小学生の夏休みに話を聞いた私は、日本地図で同じ距離を測りました。大阪～山形とほぼ同じでした。長女の母は大連に着くまでに中国残留日本人孤児になってもおかしくなかったと言い、孤児の方が本当の肉親を捜しに日本へ来られる報道を観るたびに涙を流していました。また、終戦後のある日、村にロシア兵がきた時、曾祖母は母たちをふる場にかくまい、ロシア兵の前に一人立ちばかり、「この家に住んでいるのは私ひとりだ。撃つなら私を撃ちなさい」と言ったそうです。母や、弟である叔父は、幼くても息を詰めてそのやりとりを聞いていたのです。幸い無事で済んだのですが、その時の緊迫状況を今のウクライナの報道から想像すると、何度も生かされて今の自分が生まれてきたのだ、命のバトンが繋がったのだと思い、身震います。そしてまた、自分を顧みない勇ましさは、母を通して私もこの曾祖母から受け継いだDNAなのだなあとも思いました。

なぜここでこの話をするかといいますと、子どもの頃に聞いた話は忘れることなく心に刻まれ、年を重ねるごとに折に触れ思い返し、その年代なりの新たな気づきや学びを得るものだと、親の経験談からだけでも思ったからです。そして人

生で、苦しいこと、孤独で寂しいこと、時には絶望するようなことがあったときに、無念の死を遂げた人たちや学校に通えなかった人のことが頭に浮かび、なにくそと踏ん張ることができるのではないかと思うからです。戦中戦後を知る世代の方は80代以上になっておられると思いますが、もし身近におられたり出会われたりする機会があれば、暑い夏にこそ、可能ならばですが、経験談をぜひ聞いてほしいと思います。生々しい、恐ろしいと感じる内容もあるかもしれませんが、過去の事実であり、決して人ごとではありません。平和は、雑草のように放っておいて保たれるものではないからです。時には心が泥をかぶることを怖れず、粘り強く努力して、生みの苦しみを味わいながら作ってきたものだと思います。歴史は、先人がもがきながら築き上げた平和や経済成長を知る学習ととらえねばと思います。何歳になっても、です。

社会の縮図である学校は、子どもの頃から小さいさかいを積み重ねながら、その度に何がいけなかったかふりかえり、友達とどう過ごしたらお互い心地よいかを、日々学ぶところでもあります。何があっても暴力はいけないこと、話し合いなどのコミュニケーションで解決し、アンガーコントロールすることや、互いのよいところを見て、距離感をつかむことなど、まさにグローバルに通用する友好平和の基礎を関わりの中で学んでいます。大人も時には子どもから学ぶこともありますね。まさに「教育」は「共育」だなあとと思います。

さて、この夏休みお子さんがタブレットをご家庭にもち帰っていると思います。スマホやタブレットは、いわば刃物や火の扱い方を学ぶのと同じです。使えるようになることはこれから必要ですが、放任したり使い方を誤ったりすると、大火事を起こし、人を傷つけ、時に命を奪う道具になってしまいます。最も不幸なことは、自らの人生をも台無しにしてしまうモノにもなりうることです。今回フィルタリングをかけさせていただきましたので、学校のタブレットは夜間使用できなくなっているはずですが、子どもに就寝時間は大切です。脳に大きなダメージを与えないよう、保護者の方は、睡眠時間と環境を確保してあげてください。

睡眠といえば、7月、外で遊べない日の昼休みは、試行的に「立花シエスタ（昼寝）」を取り入れました。ほんの少しの時間ですが、オルゴールの音色を聞きながら机に伏して静かに過ごすことで、その後のぐんぐん学習や午後の授業の集中度が上がっているといいなと思います。今ふりかえりをまとめているところです。

150周年記念ロゴが、周年行事実行委員会、学校運営協議会、教職員、そして児童と投票集計が終わり、各賞が決まりました。子どもたちには終業式で発表しました。あらためてきちんと披露していきます。

プールボランティア、図書修理ボランティアで協力いただいた保護者地域の皆様ありがとうございました。

2学期はいよいよ体育大会や図工展などの行事が続きます。しっかり身も心も充電して、皆様にとって、よい夏休みとなりますことを願っています。

コロナ陽性の確認は夏休み中もいたします。電話かGoogle フォームを活用してすぐお知らせください。尚、8月11日～17日は学校閉鎖です。電話確認は18日以降になります。

幼保小連携の七夕交流をしました。立花幼稚園、大西保育所の年長組さんと、立花小学校の5年生が立花南生涯学習プラザの広場で一緒に飾りつけをして七夕の歌を歌いました。立花地域課の皆様ご協力ありがとうございました。

お兄さんもお姉さんもやさしいなあ

